

えりもしゃくなげ



教育委員会だより 発行者 教育長 川上松美

新しい年を迎え

新しい年を迎えましたが、町民の皆様には今年も「えりもの教育」へのご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

教育委員会としては、学校教育では「凡事徹底と家庭学習の充実」を全町上げて引き続き進めてまいります。

また、社会教育では成人式を皮切りに諸行事等が進められますが、今年も、町民の皆様が心の潤いを感じることができるよう、事業の充実を図ってまいります。

新たな取組 ～ 小・中・高の接続 小学生からキャリア教育 ～高校3年生進路講話～

12月9日(金)、えりも高校の進学や就職が内定した先輩がえりも中学校に来校し、進路決定に当たってその道に挑戦するまでの苦労を話しするとともに、後輩たちに学校生活で大切にすることを熱く語ってくれました。

この取組は、昨年度まで高校3年生がえりも中学校3年生に講話していたものです。

当町の生徒は日常の家庭学習についても時間不足があることなど、学ぶことへの目的意

識の希薄化が課題となっていました。

そこで、年齢の低い時期から、将来の夢を考えさせ日々の学習に充実感をもって生活することをねらいとして自らの生き方、在り方について考える機会として進められました。

当日は、えりも中全生徒136名に加え町内4小学校の6年生35名が参加しました。

中高一貫教育のよさを生かした取組として大変意義あるものと言えます。



(真剣に高校生の講話を聴く小・中学生)

講話の4名の皆さんは、次のようなことを強調していました。

○北海道医療大学へ進学が決まった村中結里菜さんは、

「大学のオープンキャンパスに参加して作業療法士の道を選択した。専門以外でも各学科と連携できるのが魅力。小論文提出では普段の勉強が大切」と話されました。

○光塩調理製菓専門学校合格の荒木圭太君は、

「父の働く姿を見て寿司店を継ぐことを決めた。小論文では、読書習慣を身に付けておくことが大切」と話されました。

○帯広市の老舗銘菓店・柳月へ内定の山岸陽奈さんは、「柳月の商品は道内で有名、お客さんを笑顔にさせるよう励みたい。試験は一般常識が中心。目標に向かって頑張ること」と話されました。

○えりも町役場に就職内定の富川莉子さんは、「管内公務員1次試験は厳しかった。特に、一般教科試験の難易度が高い。努力目標をもつこと」と話されました。

4名は、それぞれが自分の生き方に目標を持つことの大切さを強調していました。

○小学生 東洋小 中野蒼彩さんの感想

私は高校卒業後、進学したいと思っていたので、入試方法について特に気になっていました。知って驚いたのは、推薦入試、指定校推進、AO入試など、いくつかの方法があったことです。その時、自分に向いている方法を選択できれば少しでも合格できる確率が上がるので、将来よく考えたいと思いました。

また、「人に対しての話し方も大切だ」と話を聞いて感じました。高校生の方は大勢の人の前で堂々と話していました。私も落ち着いて自分の考えを相手に伝えたいです。

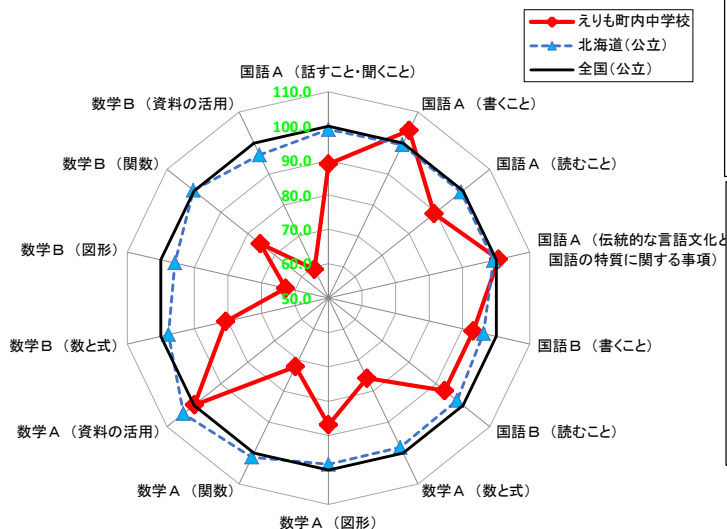
今回の進路講話では、今の勉強が数年後に繋がっているということを実感できました。これからも、勉強や家庭学習、習い事などを未来のために続けていきたいです。

裏面には、全国学力・学習状況調査の公表について、町内中学校の部分を掲載しました。概要は、12月号で記述してあります。

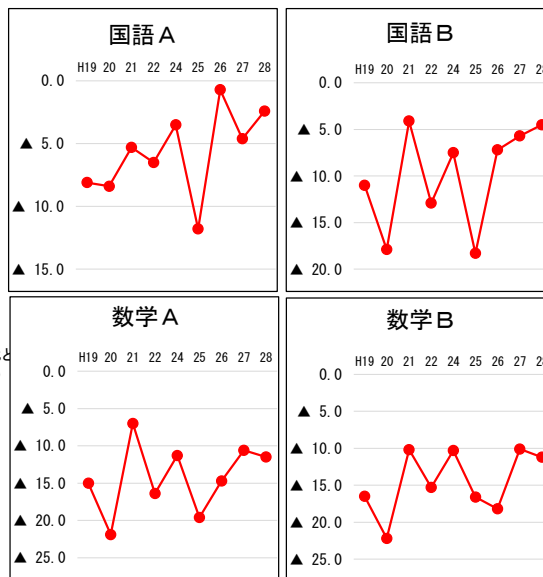
■えりも町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:1、生徒数:43名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

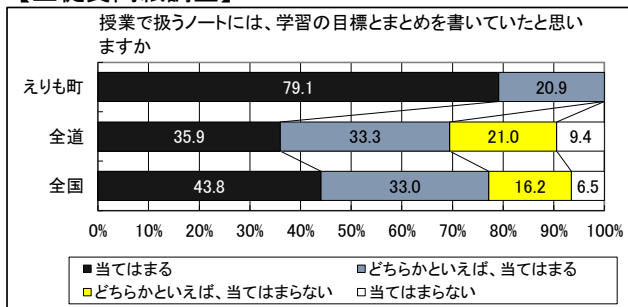


【平均正答率の全国との差の推移】

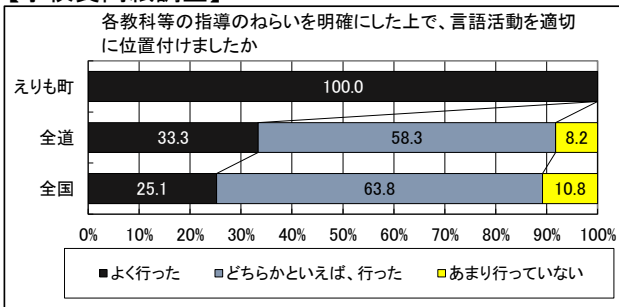


※「平均正答率－全国(公立)の平均正答率」の差の経年変化

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国を上回っている。 ○ 国語A・Bでは、前年度と比較して、全国の平均正答率との差が縮まっている。 ○ 数学Aでは、「資料の活用」で、全国とほぼ同様になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたことにより、生徒の主体的・対話的な学びが構築され、国語A・Bで、前年度と比較して、全国との差が縮まったと考えられる。 ○ 板書とノートの連動、まとめの位置付けなど、えりも町5つの方策に組織的に取り組んだことにより、授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思う」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。	
学校質問紙	○ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切によく位置付けた。	

【えりも町の学力向上策】

- ◎ えりも町4つの方策(学習規律、板書とノートの連動、まとめの位置付け、研修交流)による授業改善
- ◎ 数値目標を形骸化しない日常の授業における「凡事徹底」
- ◎ 町独自による学習指導充実のための臨時採用教員の配置
- ◎ 実物投影機等ICT機器を活用した授業改善
- ◎ 小・中・高の接続・連携を意識したキャリア教育の充実